

ザンビアで暮らしてみても

日立建機(株) 赤池 洋次

私が社命を受けザンビアに赴任したのは、2010年の11月の初めでした。

仕事は、ザンビアに現地会社、日立建機ザンビア(HCMZ)を設立し、建設機械を構成する主要機器(油圧シリンダ、油圧ポンプ・モータ、減速機、電動モータ、オルタネータ等)を全分解整備・再生するための工場-再生センタを立ち上げる、というものでした。

この度、任期を終え、2013年4月をもって、日本へ戻ってきました。

2年半のザンビアでの生活を振り返って、ザンビアについて、ザンビアでの生活について、また仕事について、思いつくまま紹介させて頂きたいと思います。

鉱業と農業でさらなる経済成長を目指す国-ザンビア

ザンビア共和国は、アフリカ南部の内陸国で、コンゴ民主共和国、タンザニア、マラウイ、モザンビーク、ジンバブエ、ナミビア、アンゴラの7つの国に接しています。面積は、日本の約2倍ありますが、人口は約1,300万人で、その1割余り、140万人が首都ルサカに住んでいます。

南隣のジンバブエとの国境に流れるザンベジ川には、世界三大瀑布(滝)の一つ「ビクトリアの滝」があります。大自然が多く残され、野生動物も多く生息している、必見のスポットです。

熱帯性気候ですが、ルサカ(標高約1200m)では、1月の平均気温21度、7月の平均気温16度と、年間通してしのぎやすい環境です。

経済ですが、現在は鉱業と、とうもろこし(メイズ)生産を主体とした農業が、中心となっています。

ザンビアは、世界的な銅の産地で、毎年世界で10指に入る生産量を誇っています。

1964年に英国から独立し、1992年の民営化法の施行により、国有化されていた企業や銅山の民営化が促進されました。経済の安定化と銅の国際価格上昇に伴い、銅山開発を中心に外国資本の流入がもたらされ、現在のザンビアの堅実な成長を支えています。

ルサカの生活

2010年の世界平和度指数ランキングで、ザンビアは149カ国中51位となり、アフリカの中の平和な国の一つ、として評価されているようです。

では、首都ルサカの生活環境をご紹介します。以下は、私が住んでいた時の私の理解ですので、思い込みや勘違い等、間違いがあるかもしれません。こんな感じ、というイメージを掴むための参考にしていただけたらと思います。

【在留邦人】 230人

【治安】 比較的良好

- (車上荒らし、置き引きは多く発生)
- 【住宅事情】 一軒家、長屋タイプとも物件は多い、価格は外国人向けのため高め
(停電、断水は頻発)
- 【理髪店】 外国人が多く行く理髪店利用(約 1,000 円くらい)
(ローカルの店だと丸刈りのみ?)
- 【外食】 中華料理(多数)、韓国料理(2店)、インド料理、西洋料理他
(いずれも値段は高い。日本料理屋はなし)
- 【自炊】 昼食は弁当持参が経済的。おいしい米入手可(Mongu, Chama)
(当地主食 'シマ' - 蒸かしたメイズもある。おいしいパン屋増えた)
- 【買い物】 大型スーパーマーケット(南ア資本)あり
(食料品、日用品など調達可能、値段は高い)
- 【娯楽】 ルサカ近郊にゴルフ場 - 2か所、サファリロッジ - 数か所

日立建機ザンビアの紹介

カッパーベルト州(ザンビア北西部コンゴとの国境)には銅鉱山が多く、日立建機は 2006 年より現在まで、100 台以上の大型建設機械(ダンプトラックと油圧ショベル)を納入して来ました。採掘現場で、これらの機械は昼夜稼働します。お客様からみると、休車時間をいかに抑えるかが、より多くの生産をあげるためのキーワードになります。

より耐久性の高い機械を世に送り出す、より質の高い修理・部品サービス(早い、安い、巧い)を客に提供することに、各社しのぎを削っています。

この目的達成のため、また採算効果も大きい、再生センタ(機器再生工場)の建造が決定され、2010 年 10 月に現地法人の日立建機ザンビア(HCMZ)を設立しました。

当センタは、ルサカを中心街からザンビア国際空港へ向かう道路沿いという好立地にあります。在ザンビア日本大使館のご協力で、2ヘクタール余りの敷地をザンビア政府関係機関より借り受ける事ができました。

建設施工は鴻池組殿にお願いし、2010 年 12 月末に着工し、1 年 3 か月後の 2012 年 3 月に竣工引き渡しとなり、同 4 月より工場操業開始し、現在に至っております。

この間、いろいろな事がありましたが、その都度、ザンビア日本大使館、JICAザンビア事務所、ザンビア政府関係省庁のサポートを頂き、乗り越えてくることができました。その代表例を紹介致します。

(2010 年 12 月 15 日) 工場建築認可取得 - ECZ の環境アセス取得に 3 か月を要した。

(2011 年 6 月 2 日) 起工式開催 - 総勢約 250 名、ルピア・バンダ(前)大統領、関係大臣・閣僚、江川大使、鍋谷 JICA 所長、佐々木鴻池組常務
有馬日立建機常務、岡島日立建機アフリカ社長
(バンダ大統領のスピーチ) - 日本企業から初の本格的な投資を歓迎、他の日本企業、また全世界から、質のよい投資誘発を期待する。

(2012 年 6 月 15 日) 開所式開催 - 総勢約 200 名、主要顧客、アレキサンダ・チクワンダ

(2012年7月8日)

(現)財務大臣、関係大臣・閣僚、日本大使館、JICA、鴻池組
日本からの部品第一便が再生センタにようやく到着—旧政権下、当
センタで使用する部品5年間関税ゼロの優遇処置(認可迄に6か月を
要した)を取得し、初期在庫部品を日本に発注・手配した。2012年
1月にこれらの部品が届いたが、通関できないとして、税関で足止
めとなった。理由は認可時に適用された省令に、機器再生事業は含
まれていない、の新政権の判断によるもの。ザンビア大使館に強力
に後押し頂き、調整、交渉を繰り返し、省令を改定(職種の追加)し
てもらい、問題解決するまで更に6か月を要し、やっと部品通関で
きた。

現在、再生できる機器の種類も着実に増やしてきており、当初計画したすべての機器の
品揃えが今年中には完了する見込みです。

まず、カッパーベルトで稼働しているショベル、ダンプトラックの油圧機器、電気機器の
再生品供給を開始していますが、モザンビークなどアフリカ南部地域へ、その供給範囲を
広げてゆく計画です。